

第1回 昭島市事務事業外部評価委員会

議事要旨

〔日 時〕 平成27年7月27日（月）19：00～20：30

〔場 所〕 昭島市役所 2階 204会議室

〔出席者〕

1 委員

稲垣浩委員、竹井和子委員、船越洋之委員、古舘靖史委員、和田篤彦委員

2 事務局

佐藤副市長、灘家行政経営担当課長、板野財政課長、滝瀬財政係長、進藤企画政策係長、吉野企画政策係主任

3 傍聴者 なし

〔配布資料〕

- ・ 第1回事務事業外部評価委員会 次第
- ・ 事務事業評価の概要について（資料1）
- ・ 平成27年度 外部評価候補事業一覧（資料2）
- ・ 平成27年度 外部評価候補事業 内部評価シート（資料3）
- ・ 平成27年度 外部評価候補外事業一覧（資料4）
- ・ 事務事業外部評価委員会委員名簿（資料5）
- ・ 事務事業外部評価委員会要綱（資料6）
- ・ 平成27年度外部評価委員会実施予定（資料7）
- ・ 事業別予算における事業名分類基準（追加資料）

〔議事要旨〕

外部評価の実施にあたり、副市長より委員会設置の趣旨や委員への期待が述べられた。

1 委嘱状交付

副市長より各委員に委嘱状が交付された。その後、各委員及び事務局職員の自己紹介があった。

2 委員長及び副委員長の選出

委員の互選により、委員長に和田委員、副委員長に船越委員が選出された。

3 事務事業評価の概要について

4 外部評価候補事業について

事務局より、資料1に基づき、市の事務事業評価の概要についての説明、及び、資料2～4より平成27年度外部評価実施事業の選定等について説明が行われた。

《質疑応答》

◆ただいま、事務局より評価の概要及び評価候補事業についての説明があった。用語や資料について分かりにくい点があればご質問いただきたい。自分の方から一つ質問だが資料4について、備考欄にH25-1などと記載があるが、どのような意味か。【和田委員長】

○過去に外部評価を受けている事業についてはこのような番号を付けており、平成25年度の事業番号1という意味である。【事務局】

◆記載されている金額の単位は円でいいのか。【稲垣委員】

○円である。【事務局】

◆必要性、妥当性、効率性、有効性の面から、今後の方向性として縮小・廃止までを含めた評価をすることだが、例えば企画調整経費を選定したとして縮小・廃止ということはあるのか。実際、評価に向いている事業とそうでない事業をある程度区別する必要があると思うが、どうなのか。【稲垣委員】

◆厳密にいうと資料1の評価について、内部評価は478事業を総括したもの、外部評価は選定した8事業の平均であるので比較はできない。傾向としてはこのようになっているとは言える。【和田委員長】

○今の企画調整経費の例でいうと、資料2では人件費を除いた決算額が記載されているが、資料3の個表を見ていただくと人件費等も記載されているので、人件費をここまで投入する必要があるのかなど、そういった点についてもご留意いただける部分もあると考えている。【財政課長】

◆廃止といったことではなく、もっと具体的なことについて考えていくということなのか。【稲垣委員】

○そのようにお考えいただきたい。【財政課長】

◆事務経費と管理系の事業を一緒に評価していくのは難しいように思えるが、差別化した方がよいのではないか。【稲垣委員】

○資料2で事業の名称(予算科目)とあるが、科目名称として経費、活動費、事業費、管理運営費などに区別して使用している。その説明資料を後程、配布するのでご参照いただきたい。【財政課長】

◆意見として述べさせていただく。事務局で用意していただいた資料は従来の進め方で今年度も実施する方向でご準備いただいたものだと思うが、今年度新たな委員が2名加わり、結論としては従来の進め方でいいと思うが、もし入れ替わりがなく経験者だけであれば、これまで外部評価の対象となった事業の中から吟味して、その現時点での内部評価を参考にしながら再度、外部評価の対象にしたかどうかという考えもあった。というのも6月に「外部評価対象事業のその後の対応について」というこれまで対象となった事業の追跡調査の報告書が事務局から各委員宛に送られていると思う。その中でこれまでの対象事業の担当課の方たちは外部評価委員会が指摘した改善事項等に対してどのように取り組んでいるのかを報告しており、そういう形で努力されているのであればその結果を改めて理解して次のステップに進むというやり方もあるのではないかと考えていた。昨年も同じように報告書をご提出いただいたが、委員会の指摘事項への対応について今後の取組事項の中で全く触れていない事業

が約1割あった。例えば商工団体等補助事業については、商工会に市からかなりの額の補助金が出されているにもかかわらず外部監査を実施していないので監査の必要がある旨、指摘したが、追跡調査の報告書の中ではそのことが全く触れられていない。どうなっているのかという疑問もあった。全体としては9割方、評価に対して何らかの対応をしているが、1割の事業で記述がない。やっているのかどうかも分からない。そういうところをフォローする意味も含めて今年度の対象事業を選んだ方が良いと思って会議に臨んだが、新たな委員さんもおられる。だからそのやり方は次回以降の課題とさせていただきます、従来通りのやり方で進めていくのもやむを得ないと思っているが、事務局の方ではそういう意見もあるということをご理解いただきたいと思います。【和田委員長】

○今お配りした資料の説明をさせていただく。資料は27年度予算のものであり、事業数はあっていないのでご承知おき願いたい。経費とは行政内部の管理的費用、活動費もまた右に書いてある通りなので、こういった形で見ただけであれば事業一覧にある事業名称がどのような分類に属するかわかるようになってるのでご参照いただきたい。事業費と管理運営費などが対象になりやすいと考えている。【財政課長】

◆先ほど委員長から、以前評価を行った事業のフォローをというご意見があったが、この報告書を見ていると課題に対して応えているところと何となく流してしまっているところがあるが、企画政策課の方で取りまとめる際に課題に対して一問一答で必ず答えるよう働きかけはしなかったのか。【稲垣委員】

○一年前も委員長から同じご指摘をいただいております、今回「評価対象事業の今後の方向性及び取組事項」をまとめる際に事務局の方としても一問一答のような形で各課に照会を掛けたが、担当課の考えもあり結果としてはそのような形となった。【行政経営担当課長】

◆できないならできないで構わないと思うが、何ができないのかを分からないと結局流されてしまっただけでこちらとしても何を言ってもダメだと考えるし、対話が成り立たないような感じになってしまうと思われる。担当部署からお話をいただくことともう一つ重要だと思われるのが予算の方で、直接予算編成に結びつけないまでも財政課で査定をする際にどのように活用されているのかが分かると、もう少し現実的なものになり、その効果というかフォローとしてわかりやすいと思われる。【稲垣委員】

○評価に対して何らかの対応をしているところはここに記載があると思う。ただ対応が難しい部分に関しては抽象的な内容になっているかもしれない。【行政経営担当課長】

◆予算査定の際にこの評価をどのように活用しているのか、毎年お示しいただけると分かりやすいかもしれない。質問だが、同じ資料で同じ事業名称が出ているところがあるがどういうことなのか。例えば資料4の事業番号283と284は就学援助費であり決算額も異なるが、なぜ分かれているのか。【稲垣委員】

○説明が足りなかったが小学校費と中学校費などで予算科目が分かれています。【事務局】

◆資料1の裏面に平成27年度の課題について、26年度の委員会での意見を4項目にまとめたものだが、それへの対応策として事務局から説明があったが、それについて何かご意見があれば伺いたい。例えば1点目に関しては、選ばれた事業の内容や性格によって工夫をしていきたいといった内容だったが、どう思うか。【和田委員長】

◆施策レベルの評価の実施については難しいということだったが、それではこれについては課題として取り上げていただけないということなのか。【竹井委員】

○4点目については今回の委員会では対応が難しいと考えている。昨年の委員会の中でお話をさせていただいたが、ここでこの外部評価も5年目になり、外部評価自体の見直しをさせていただきたいと考えている。その中で、施策レベルの評価というものについても検討していきたい。今年度についてはこれまで通りの形で事務事業に対する評価を行っていただきたいという考えである。【行政経営担当課長】

◆昨年度は経費と管理、事業からバランスよく、あと所属部についても1部から1事業程度で選定してほしいという内容だったと思う。なので先ほどの委員長のご意見にあった過去の対象事業も併せて、こういった観点から選定していくというのも一つの考えだと思う。【船越副委員長】

◆古舘委員はここで新たに参加していただいているが、これまでの経緯に関わらずご意見などがあればお願いしたい。【和田委員長】

◆事業の選定にあたっての様々なご意見を伺っているが、どういった事務事業を評価していくか、対象事業の選定後に意見を述べていきたい。【古舘委員】

◆それではここで確認だが、事業数は8事業。それぞれの部からまんべんなく1事業選ぶこと。事業、管理、経費などの区分についての資料をお配りいただいたので、それらを踏まえながらバランスよく選んでいただきたいと事務局よりお話しいただいた。ただ、委員個人で候補事業を選定する際は特にそれにこだわらずに選んでいただきたい。候補事業と候補外事業に資料が分かれているがそれについてもこだわらずに選定を進めていただきたい。【和田委員長】

◆過去に外部評価の対象となった事業についても、今年度の対象になり得るのか。【竹井委員】

◆当初はそれらも含めて対象にすることを考えていたが、それは一意見に留めて、従来通り実施するというのが自分の考えである。【和田委員長】

◆8事業を対象にするなら、1事業か2事業は過去に実施したもののフォローということで試験的に対象にしてみてもよいのではないか。【稲垣委員】

◆一昨年は何事業実施しているのか。【船越副委員長】

○平成25年度は13事業実施した。ただ後程、今後の日程についてお話しさせていただくが、評価については10月中に2日間で行っていただきたいと考えている。1日4事業実施するとして8事業が適当であると考えており、その辺も考慮しての事業数である。【行政経営担当課長】

◆外部評価のねらいのひとつとして、次年度予算への反映があり、予算編成に間に合うように11月上旬には評価をまとめたいというお話はいただいており、こちらとしてもそれらを尊重したいと思っている。多くの事業を長時間かけて評価すれば効果があるかという点と必ずしもそうではないので、8事業程度が適切ではないかとも考えている。【和田委員長】

◆資料7については通常通りの予定なのか。【稲垣委員】

○各課の予算要求の締め切りが11月上旬で、そこから編成作業に入るのので、一定の評価を受けて予算に反映させるには基本的には10月中に結果が出ていないと難しい。この予定であれば何とか査定には活用できるかもしれないといったところである。【財政課長】

◆8事業の評価を行い、予算の査定に活用するのであれば、査定に活用しやすい事業を選定した方が業務上よいのではないかと考えられるが、どうなのか。【稲垣委員】

○通常の査定でも厳しく見ているので、評価の対象となった事業についてはそれ以外に委員会の意見を予算に反映できるかという視点で見たいと考えている。【財政課長】

- ◆先ほど稲垣委員から、過去に評価の対象となった事業を2事業くらい試験的に評価してみてもというご提案があったが、それについてはいかがか。自分としては、今回は従来通りで良いと思っているが、稲垣委員が構わなければそうしたい。【和田委員長】
- ◆自分としては1事業か2事業、過去の評価対象事業を実施したい。【稲垣委員】
- ◆それでは事務局の提案に沿って選定する方向で進めていきたい。全体を通して何かあれば伺いたい。【和田委員長】
- ◆過去の例でいうとこの外部評価はどれくらいインパクトがあったのか。【古舘委員】
- 行政側としては必要な事業を行っているという意識があり、いただいた評価をそのまま反映させるのは難しい部分もある。【行政経営担当課長】
- ◆評価の対象にならないでよかったというような風潮があるなら、これまで評価の対象になっていないような課を対象としていけばよいと思うが、どうなのか。【古舘委員】
- その点を考慮して事務局としては過去に対象となった事業を候補外リストに掲載している。ただこれまで4回実施して5回目ということもあり、過去にこの事業を評価したけれどその評価がどのように反映されているかを見たいというのも一つの考え方ではあると思っている。【行政経営担当課長】
- ◆外部評価がどのくらいのインパクトがあったかというご質問に対して、自分の理解としては、資料1の表面、平成26年度の内部評価の実施状況についての記載の中で、評価結果として合計平均が12.9点ということだが、第1回の23年度の合計は15点くらいだったと思う。回を重ねるに従い内部で自らを見る目も厳しくなってきたと感じており、そういった効果はあると考えている。【和田委員長】
- 外部評価導入当初、それまで職員として自分たちがやっている事業を外から評価されるという経験がなかったので、そういった点では非常にインパクトがあったといえる。【事務局】
- ◆政策評価自体は政策決定がない。事業の継続や廃止に関してではなく、むしろ業務に対して説明責任を果たしてもらうための制度、外からの視点に対して納得のいく説明をしてもらうためのものなので、非常に良い効果が出ているのだと思う。その点では5年間続けられてよかったのではないかと考えている。【稲垣委員】
- ◆先ほど稲垣委員からご指摘があり、就学援助費は小学校費と中学校費で予算科目が分かれているということだが、そういった分かりにくさはこれまでも委員会の中でたびたび出てきており、例えば給食費の関係でも小学校、中学校、自校給食、調理場と事務事業が細分化されており、給食事業全体としてどうなっているのかというところに質問が集中するが、担当者も自分の担当外のことまでは答えられず、もどかしい場面もあった。そのため施策というレベルで評価を行ってはどうかという意見につながっている。【和田委員長】
- ◆施策レベルの評価になると総合計画策定の際に行わないと難しいのではないかと。毎年施策をチェックするというのは大変な作業になると思う。ただ毎年細かく事業をチェックしていくのは大切であり、そのチェックが総合計画を作るときに活かされているかどうか、そのフォローをしていかなければ時間の無駄になってしまうと思われる。施策と事務事業の関係がどうなっているか、その見直しがどのように行われているのかを教えていただければ参考になると思う。【稲垣委員】
- どのレベルで行うのがいいのかといった話になると思うが、和田委員長の発言にあったが事務事業があまりに細分化されているので、それをもっと大きな枠でみてということで、今の事務事業より少し上の段階からの評価は可能なのか考えてみたいと思っている。【灘家行政担当課長】

◆それでは他になければ次の議題に移らせていただく。【和田委員長】

5 その他

今後の委員会の実施について事務局から説明があり、日程調整を行った後に評価対象事業の選定について確認を行った。

◆それでは本日の議事内容については以上だが、全体を通して何かあればお伺いしたい。なければ、以上で閉会とする。次回第2回委員会は8月3日18:00から開催する。本日はありがとうございました。

【和田委員長】

～閉会～